第3章　主要施策と事業計画

以下の戦略に基づく施策において、計画的、効果的、効率的に事業を推進します。

戦略Ⅰ　魅せる		「あわらならでは」の魅力の磨き上げ	
施策1	あわら温泉の魅力の磨き上げ	1	芦原芸妓の継承、越前竹人形や湯かけまつりの魅力向上と発信力強化
		2	セントピアあわらと温泉文化の磨き上げ、旅館における食のおもてなし
		3	生産者と宿泊事業者や飲食店との連携強化
施策2	自然・歴史・文化・食などの観光資源の磨き上げ	4	まち・むらときめきプランと連携した観光素材の掘り起しと磨き上げ
		5	自然・歴史・文化資源のあわらならではの磨き上げ
		6	文化財や郷土歴史資料館の活用促進
施策3	あわらブランドの創造と知名度向上	7	地域資源のブランド化やゆかりの人などとタイアップした知名度向上
戦略Ⅱ　創る		地域の個性を活かした魅力的な観光エリアと拠点の創造	
施策4	北陸新幹線芦原温泉駅周辺整備	8	芦原温泉駅西口駅前施設整備の推進
		9	芦原温泉駅観光案内所と魅力体感施設の機能の充実
施策5	各エリアの特徴を活かした地域づくり	10	北潟湖や花菖蒲園を活かした湖畔エリアの磨き上げ
		11	波松小学校を活かしたブルーツーリズムの推進
		12	歴史ロマンを感じる「蓮如の里」「蓮如の道」づくりの推進
		13	細呂木の史跡を活かした魅力の磨き上げ
		14	フルーツラインを活かした収穫体験やツーリズムの推進
		15	金津創作の森やトリムパークかなづの観光拠点としての強化
		16	坪江・剱岳の里山のめぐみを活かしたツーリズムの推進
		17	田園エリアの自然と景観を活かしたツーリズムの推進
施策6	テーマのある景観づくり	18	金津まちなかエリアの景観づくりと回遊性の創出
		19	温泉地にふさわしい景観づくり
施策7	ユニバーサルな受け入れ環境づくり	20	案内看板・サインなどにおける多言語表示の整備促進
		21	Wi-Fi環境の整備促進
		22	キャッシュレス決済システムや免税店の導入促進
		23	ユニバーサルツーリズムの推進
戦略Ⅲ　誘う		マーケティングに基づいた誘客拡大	
施策8	マーケティングの実施と活用	24	マーケティング調査システムの検討とデータの活用
		25	「あわらファンクラブ」と「お客様の声」の活用
施策9	「あわらならでは」の旅行商品やお土産の開発	26	温泉と農業と健康に特化した滞在プログラムの開発
		27	地域の祭や伝統行事を活かした体験型旅行商品の開発
		28	教育旅行誘致のためのプログラム開発
		29	外国人が楽しめる体験プログラムの充実や新たなサービスの開発
		30	他市町と連携した周遊型旅行商品の開発
		31	高付加価値で魅力的なスイーツやお土産の開発

戦略Ⅳ　伝える		ターゲットに伝える戦略的な情報発信と営業活動の展開	
施策10	戦略的な情報発信	32	SNSやインフルエンサーなど、インターネットを活用した情報発信
		33	各種メディア(テレビ、ラジオ、雑誌など)を活用した情報発信
		34	戦略的な海外プロモーションの実施
		35	県及び昇龍道などと連携した情報発信強化
施策11	様々な団体と連携した営業活動や旅行商品の共同開発	36	越前加賀インバウンド推進機構による誘客拡大
		37	旅行会社への営業強化と商品造成促進
		38	教育旅行、MICEの誘致
		39	交通事業者や旅行会社と連携した誘客キャンペーンやイベントの展開
		40	海外都市交流事業でのPRやトップセールスの実施
戦略Ⅴ　結ぶ		組織や地域を結ぶネットワークの整備	
施策12	市内外を結ぶ二次交通ネットワークの形成	41	えちぜん鉄道及びバスを活用した移動手段の充実
		42	タクシーやレンタカーを活用した移動手段の充実
		43	レンタサイクルやライドシェアの導入促進
施策13	広域観光ネットワークの活用	44	市内外の観光案内所間のネットワークづくりと相互連携
		45	高速道路や周辺空港など高速交通ネットワークの活用
		46	連携中枢都市や周辺市町との連携強化
戦略Ⅵ　育てる		観光振興を担う人材育成と推進体制の充実	
施策14	市民のおもてなし意識の醸成	47	観光事業従事者の確保とおもてなし意識やサービス力の向上
		48	市民の地域に対する愛着醸成
施策15	観光コンシェルジュや観光ガイドの育成	49	観光コンシェルジュの雇用・育成
		50	案内所職員・観光事業者・観光ガイドを対象とした外国語研修
施策16	観光推進体制の強化	51	観光ガイドネットワークの構築と継続的な研鑽の実施
		52	観光振興課と観光協会の体制強化

戦略Ⅶ　招く		世界から招く受入環境の整備	
施策2	自然・歴史・文化・食などの観光資源の磨き上げ（再掲）	6	文化財や郷土歴史資料館の活用促進（再掲）
施策7	ユニバーサルな受け入れ環境づくり（再掲）	20	案内看板・サインなどにおける多言語表示の整備促進（再掲）
		21	Wi-Fi環境の整備促進（再掲）
		22	キャッシュレス決済システムや免税店の導入促進（再掲）
		23	ユニバーサルツーリズムの推進（再掲）
施策9	「あわらならでは」の旅行商品やお土産の開発（再掲）	27	地域の祭や伝統行事を活かした体験型旅行商品の開発（再掲）
		29	外国人が楽しめる体験プログラムの充実や新たなサービスの開発（再掲）
		31	高付加価値で魅力的なスイーツやお土産の開発（再掲）
施策10	戦略的な情報発信（再掲）	34	戦略的な海外プロモーションの実施（再掲）
		35	県及び昇龍道などと連携した情報発信強化（再掲）
施策11	様々な団体と連携した営業活動や旅行商品の共同開発（再掲）	36	越前加賀インバウンド推進機構による誘客拡大（再掲）
		40	海外都市交流事業でのPRやトップセールスの実施（再掲）
施策15	観光コンシェルジュや観光ガイドの育成（再掲）	50	案内所職員・観光事業者・観光ガイドを対象とした外国語研修（再掲）

戦略Ⅰ　魅せる　「あわらならでは」の魅力の磨き上げ

■ 施策1　あわら温泉の魅力の磨き上げ

事業1	芦原芸妓の継承、越前竹人形や湯かけまつりの魅力向上と発信力強化
現状と課題	◇芦原芸妓は明治20年頃から、あわら温泉の宴席に華を添えてきましたが、時代の変化に伴い、年々芸妓を伴うお座敷の数は減少しています。それとともに、芸妓の数も年々減少し、高齢化と後継者不足が深刻になっており、芦原の芸妓文化の継承が課題となっています。 ◇お座敷遊び体験や芸妓変身体験は、訪日外国人から人気があり、インバウンド向けのプログラムとして重要となっています。 ◇金津創作の森の作家と連携し、日本的な伝統工芸品などを温泉街に展示するなどして、あわららしい和心のある温泉街らしさを醸し出すことが必要です。 ◇お湯をかけあう「あわら湯かけまつり」は全国的にも珍しく、あわら温泉の知名度向上や誘客拡大に有効であると考えられます。
目的と内容	◆芦原の芸妓文化の継承や活性化に向けて、外国人観光客の体験企画の充実や、若手芸妓の募集・育成、情報発信を強化します。 ◆宴席のニーズが少なくなる中で、山中芸妓、浜町芸妓、金沢芸妓などの取組みを参考に、定期的な仕事を生み出すなど、安定的な収入を得る仕組みを検討します。 ◆小説「越前竹人形」の舞台となったあわら温泉で、ゆかりのある竹人形を鑑賞できるスポットを増やし、温泉街のまち歩きを促進します。 ◆湯かけ、民踊、饅頭まきといったあわら独自の要素を組み込んだ奇祭「あわら湯かけまつり」を、日本一の湯かけまつりに磨き上げ、県内外に発信し誘客拡大を図るほか、広く子どもや若者に愛される祭として根付くよう支援します。
実施機関	・芦原温泉芸妓協同組合 ・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
先進地視察	→	→			
芸妓の新たな活動の場の検討	→	→	→	→	
若手芸妓の募集･育成			→	→	→
越前竹人形のPR検討･実施		→	→	→	→
湯かけまつり運営体制の強化	→	→	→	→	→

事業2	セントピアあわらと温泉文化の磨き上げ、旅館における食のおもてなし
現状と課題	◇セントピアあわらは、平成6年に芦原温泉街のランドマークとして整備され、開業以来、あわら温泉の総湯として、地元市民や日帰り観光客に広く利用されています。開業当初は約30万人の利用がありましたが、近年は約20万人前後で推移しています。 ◇あわら市の特に重要な観光資源の一つである温泉を、気軽に楽しめ、魅力を十分に伝える仕掛けづくりが重要となっています。 ◇近年「あわらのおもてなし」ということで、利き酒師の資格を取得した女将さんがプロデュースした「女将」という日本酒や料理が話題になっていますが、旅館などにおいて更に地元の食を活かして誘客や産品の消費拡大を図ることが重要です。
目的と内容	◆セントピアあわらを、温泉街のまち歩きの拠点の一つと位置付け、指定管理者制度による民間のノウハウを活かした集客を促進するとともに、飲食メニューやサービスの向上を図ります。 ◆芦湯や手湯、日帰り温泉など、観光客が気軽に温泉に親しみ、楽しむ地域づくりを進め、温泉自体の魅力向上を図ることで、リピーターの確保につなげます。 ◆温泉に関係の深い三温泉（舟津温泉、二面温泉、田中温泉）地区の薬師神社や薬師堂、温泉発祥地公園を、まち歩きに活用するための新たな仕掛けづくりを検討します。 ◆旅館において、地酒に合った地元食材を使った四季折々の新鮮な料理や、「美味しさ＋健康の維持・増進」を兼ね備えた料理の提供を促進します。 ◆福井県の生活に根差し、伝承されてきた精進料理や報恩講料理などの郷土料理、地元のフルーツを使った季節毎の話題性のあるスイーツなどの提供を促進し、「あわら温泉ならでは」の食のおもてなしを充実し、発信を強化します。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・芦原温泉旅館協同組合

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
セントピアあわらの魅力の磨き上げ	→	→	→	→	→
薬師神社などの温泉関連施設の活用	→	→	→	→	→
旅館における食のおもてなしの推進	→	→	→	→	→

事業3	生産者と宿泊事業者や飲食店との連携強化
現状と課題	◇あわら市の田園エリアや丘陵地エリアでは、コシヒカリやいちほまれ、糖度の高いミディトマト「越のルビー」、大本山永平寺にも納入される大根、多品種のメロンやスイカ、ぶどう、梨、柿、苺、ブルーベリーなど季節ごとに様々な農作物が生産されていますが、認知度を高め、誘客や消費額拡大を図る必要があります。 ◇芦原温泉旅館協同組合「女将の会」では、プロデュースした日本酒や酒まんじゅうなど組合加盟旅館で一体となった食のおもてなしを推進しています。 ◇現在、市内の宿泊施設と農林水産業者や食品関係事業者などの連携は、個々に芽生えていますが、地域全体での連携体制は確立されていません。 ◇旅館の料理人などで組織する芦親会と、新たに設立された農畜産業者の連携団体「ASC（アグリカルチャースマイルクラブ）」が活動していますが、新幹線県内延伸に向け、その活動をより広げていく必要があります。
目的と内容	◆宿泊者に「あわらならでは」の食のおもてなしを提供するため、市内生産者と宿泊事業者の連携を強化し、さらなる地産地消を推進するほか、食材生産者の顔が見えるPRに取り組みます。 ◆市内生産者と旅館・飲食店とのマッチング商談会により、新たな事業を促進するとともに、女将の会プロデュース食品の充実、旅館での新たなブランド米「いちほまれ」の提供など、話題性や誘客力のある取組みを促進します。
実施機関	・宿泊施設 ・農業者、畜産業者、水産業者 ・花咲ふくい農業協同組合 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・あわら市農林水産課、商工労働課、観光振興課 ・坂井農林総合事務所

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
宿泊施設の地元食材利用の調査	→				
生産者紹介パンフの作成配布	→	→			
市内生産者と事業者の商談会	→	→	→	→	
女将の会の活動支援	→	→	→	→	→
「いちほまれ」使用店の検討		→	→	→	→

■ 施策2　自然・歴史・文化・食などの観光資源の磨き上げ

事業4	まち・むらときめきプランと連携した観光素材の掘り起しと磨き上げ
現状と課題	◇「あわら市まち・むらときめきプラン」は、人口減少や少子高齢化、担い手不足が進むなど、集落を取り巻く環境がますます厳しくなる中、集落活動の活性化を図る目的で策定しました。 ◇全129集落において、アンケート調査や聞き取り調査を行い、各集落の実態や課題をまとめた「集落カルテ」を作成し、各集落では5年先、10年先を見据えた「集落ときめきプラン」を作成することとしています。 ◇市では、各集落の実態を踏まえ、その活性化に向けた主体的な活動や取組みを支援することとしています。
目的と内容	◆「集落カルテ」や「集落ときめきプラン」には、昔からの伝承や祭り、その地域ならではの食文化など、地域の誇りに加え、地域外の人たちから見ると魅力的な素材が記載されています。このような地域の誇りや磨けば光る素材に光を当て、観光素材として通用するものを発掘し、磨き上げ、旅行商品の開発を進めます。 ◆素材とともに、集落活性化に取り組む人材も重要な観光資源と位置付け、地域の協力を得ながら観光誘客を推進します。
実施機関	・各集落 ・あわら市総務課、政策課、農林水産課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・あわら市商工会　　など

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
素材の現地調査・ヒアリング	→				
観光資源の掘り起し・磨き上げ・商品化		→	→	→	→
地域住民との連携強化	→	→	→	→	→

事業5	自然・歴史・文化資源のあわらならではの磨き上げ
現状と課題	◇旧北陸街道沿いには、本陣飾り物、千束一里塚、細呂木関所跡、旧吉崎道と切通し、吉崎の寺院群など、多くの歴史・文化資源がありますが、これらの個々の素材の結びつきが弱く、単に訪れるだけでは魅力を伝えきれない資源が存在しています。また、海や湖など自然資源が観光誘客に活かしきれていない状況にあります。 ◇歴史背景や成り立ちの説明により歴史・文化的なつながりを持たせるとともに、ウォーキングやサイクリングのコース造成により動的に結びつけることで、観光資源としての魅力を向上させる必要があります。 ◇あわら市は、競技かるたを題材にした人気漫画「ちはやふる」に登場する聖地の一つにもなっており、百人一首や競技かるた、漫画、アニメ、映画などのコンテンツを活用したまちづくりや集客イベントを実施しています。
目的と内容	◆北陸街道周辺の多賀谷左近三経公墓所、旧吉崎道、吉崎御坊跡などの歴史・文化的な資源を結び、より魅力的な観光素材として活用するため、観光ガイドや語り部が同行し、案内する体制整備を支援します。 ◆ウォーキングやサイクリングに関心の高いアクティブシニア層をターゲットとし、自然・歴史・文化を満喫できるコースを設定するなど、新たな誘客事業の企画・開発を進めます。 ◆自然・歴史・文化資源の豊富なエリアの魅力を高めるため、休校などを活用しながらエリア内の特産品の紹介や販売、飲食などの提供や地域の人とふれあえる拠点として、地元組織が主体となった交流施設の運営・整備について検討します。 ◆海、山、川、湖といった豊かな自然を活用した新たな景観スポットの掘り起しや自然体験メニューの造成など、観光素材の磨き上げを行います。 ◆「ちはやふる」や競技かるたを活用したまちづくりや文化活動を推進し、あわら市の日本的な魅力の発信や知名度向上を図ります。
実施機関	・あわら市政策課、観光振興課、文化学習課、スポーツ課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・地域の活動団体 ・あわら市かるた協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
自然・歴史・文化資源の磨き上げ	→	→	→	→	→
連携団体の構築・支援	→	→	→		
各種メニュー造成		→	→	→	→
地域交流拠点施設の検討		→	→	→	→
競技かるたを活用した魅力発信	→	→	→	→	→

事業6	文化財や郷土歴史資料館の活用促進
現状と課題	◇市内の指定文化財などの案内説明看板が不十分で、見学者にその貴重さなどの価値が伝わりにくく、歴史的魅力を体感することが難しい状況にあります。また、文化財の案内マップなどが整備されていないため、市外の人にはわかりにくい状況となっています。 ◇郷土歴史資料館の展示やパンフレットは多言語化されていないため、日本の歴史・文化に興味のある外国人に伝わる展示になっていません。 ◇地域の文化財の価値や歴史的背景を地域の住民自身に知ってもらい、広めてもらうことも重要です。
目的と内容	◆市内の遺跡や文化財の更なる研究を進め、指定文化財の整備や指定の拡大を目指します。 ◆文化財の魅力や歴史的価値をわかりやすく、楽しみながら学べるように説明看板をわかりやすい表現へ改めるとともに、郷土歴史資料館の展示案内やパンフレット、ホームページなどを含め、多言語化を進めます。外国人を含む観光客が、郷土歴史資料館をはじめ市内の文化財を訪れたくなる仕組みづくりを構築します。 ◆文化財の見所をストーリーやテーマに沿って紹介する文化財案内マップなどを整備します。 ◆あわら市にゆかりのある企画展を行い、展示方法や解説の工夫をするだけでなく、企画展そのものの発信力も強化します。 ◆市民がわかりやすく、また楽しめる企画展を開催することで、歴史的・文化的啓蒙を行うとともに、各地域への出張講座や学校などへの出前授業を実施し、特に子どもたちに、地域の歴史や文化への理解を深めてもらい、市民全体の郷土愛を高めます。
実施機関	・あわら市文化学習課 ・あわら市郷土歴史資料館

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
指定文化財の整備	→	→	→	→	→
案内説明看板の多言語化	→	→	→	→	→
文化財案内マップの制作			→	→	
郷土歴史資料館全体の多言語化				→	→
展示やHPのブラッシュアップ		→	→	→	
企画展の開催	→	→	→	→	→
地域出張講座及び学校出前授業の開催	→	→	→	→	→

■ 施策3　あわらブランドの創造と知名度向上

事業7	地域資源のブランド化やゆかりの人などとタイアップした知名度向上
現状と課題	◇あわら市には魅力的な素材があるにもかかわらず、磨き上げや発信力が弱いことから、「あわらならでは」の付加価値を高めたり、他地域との差別化を図りながら、ブランド化を進めていく必要があります。
目的と内容	◆地域の誇りや宝など、あわら市内の資源を「あわらならではの」「あわらにしかない」付加価値の高いものに磨き上げ、差別化することで、国内外に通用するブランド化を図ります。 ◆各種団体や企業、個人の行う商品開発をサポートして、あわらブランドの育成と充実を図ります。 ◆温泉や自然、歴史、文化、食といった「あわらの魅力」を発信するプロモーションビデオを制作し、「行ってみたいまち、住みたくなるまちあわら」をPRします。また、制作したプロモーションビデオは、地域のブランド化だけでなく、観光誘客や移住定住、ふるさと教育など様々な分野で活用します。 ◆全国で活躍しているあわら市出身やゆかりのある人の協力を得て、連携を図りながらあわらの魅力を発信してもらうことで、知名度の向上を図ります。
実施機関	・あわら市政策課、商工労働課、観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・あわら市商工会 ・花咲ふくい農業協同組合

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
商品やサービスの選定・試行	→				
ブランド化する資源の絞り込み		→	→	→	
資源のブランド化			→	→	→
ゆかりのある人による魅力発信		→	→	→	→

戦略Ⅱ　創る　地域の個性を活かした魅力的な観光エリアと拠点の創造

■ 施策4　北陸新幹線芦原温泉駅周辺整備

事業8	芦原温泉駅西口駅前施設整備の推進
現状と課題	◇平成30年7月策定の「芦原温泉駅周辺まちづくりプラン」においては、北陸新幹線芦原温泉駅開業に向けて、駅及び駅周辺を福井県の北の玄関口にふさわしい交通結節点と魅力発信拠点として、駅利用者の利便性の向上を図るとともに、市民に親しまれ、市民と来訪者が集い、ともに憩えるエリアとして駅周辺の更なる賑わいの創出を図ることとしており、着実に整備を進める必要があります。 ◇訪れた人々に、あわら市の本質的な魅力を印象づけ、更なる誘客拡大や再来訪を促進するためには、「和心あふれる賑わい空間」づくりや、あわらならではのおもてなしが重要となります。
目的と内容	◆あわら市だけでなく周辺地域からの駅利用者を見込み、『西口駐車場』として約300台が駐車可能な立体駐車場を整備します。 ◆路線バスやタクシーなどの公共交通機関や一般車の駅利用のために、西口・東口にそれぞれ『交通広場』を整備します。 ◆現在のロータリーの位置に、駅利用者や地域住民が集うくつろぎや賑わいの空間として『西口駅前広場』を整備します。雨、風、雪の天候に左右されることがなく、待合スペースやミニイベントを行うことができる『賑わいホール（仮称）』と、マルシェやステージイベントを行うことができる屋外の屋根付き『賑わい広場（仮称）』を整備します。 ◆土地活用検討街区については、民有地であることから、民間事業者による活用を前提とし、行政として、芦原温泉駅西口駅前広場や金津本陣にぎわい広場、商店街などとの回遊性や景観統一を図るとともに活用を促進します。
実施機関	・あわら市商工労働課、観光振興課、新幹線まちづくり課

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
芦原温泉駅西口周辺施設整備	→	→	→	→	→
立体駐車場運営開始			→	→	→
西口駅前広場運営開始					→
土地活用検討街区の活用方針の誘導	→	→	→		

事業9	芦原温泉駅観光案内所と魅力体感施設の機能の充実
現状と課題	◇西口駅前広場内に整備する観光案内所では、観光客の幅広いニーズに対応できるサービスが求められていると同時に、観光ガイドやレンタサイクルの手配、手荷物配送サービス、着地型旅行商品の予約などの機能を充実させる必要があります。 ◇駅利用者や市民が気軽に利用できるカフェ・レストランや、地元の旬の特産品やあわらならではのお土産物などを購入できるコーナーの整備が求められています。 ◇整備する魅力体感施設においては、外国人観光客や目的地を探している旅行客に対して、周辺観光地や食などの魅力を十分に伝え、その場所を訪れたい、再来訪したいという気持ちを駆り立てるような発信の仕組みが必要です。
目的と内容	◆『観光案内所・魅力体感施設』は、福井県の北の玄関口にふさわしいおもてなしあふれた観光案内により、市内はもとより広域の魅力的な資源を紹介し、周遊滞在型観光のハブ拠点を目指します。 ◆市内各エリアの魅力と着地型の旅行プログラムを紹介するため、各エリアの観光施設や店舗、観光ガイド、団体などの連携を強化し、わかりやすい観光案内機能の充実を図ります。 ◆東尋坊、永平寺、恐竜博物館や加賀市の周辺観光地へのそれぞれの交通手段と所要時間などの情報提供を行うとともに、バス切符などの手配やレンタカーの案内、手荷物一時預かり・配送サービスを実施します。 ◆あわら産の野菜や果物を活かした心と体に優しい食事を提供するカフェ・レストランや地元の逸品を取り揃えた土産売り場を整備し、市内の観光消費額の増加を促進します。 ◆魅力体感施設では、観光客にあわら市や周辺市町の自然、歴史・文化、食、伝統工芸、産業、祭などの魅力的な観光資源を、映像や音、匂いなどでその魅力を体感できる仕掛けを構築し、現地へ足を運びたい、再び訪れたいと思わせる施設として整備します。 ◆SNSで拡散したくなるような楽しめるフォトスポットの整備や、定期的に展示内容を入れ替えることのできるスペースを設け、リピーターも楽しめる仕組みとするなど、旅の拠点にふさわしい施設を目指します。
実施機関	・あわら市観光振興課、新幹線まちづくり課 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
観光案内所基本設計･実施設計	→	→	→		
観光案内所整備･営業準備			→	→	
魅力体感など展示内容企画･設計	→	→			
魅力体感施設展示制作		→	→	→	
観光案内所･魅力体感施設運営開始				→	→

■ 施策5　各エリアの特徴を活かした地域づくり

事業10	北潟湖や花菖蒲園を活かした湖畔エリアの磨き上げ
現状と課題	◇北潟湖エリアには、北潟湖畔公園をはじめ、花菖蒲園、北潟国有林、あわら夢ぐるま公園、乗馬クラブパ・ドゥ・ドゥなどがあります。 ◇北潟湖畔公園ではサイクリング、カヌー、魚釣りなどのアクティビティが体験できるほか、花菖蒲や桜、赤いアイリスブリッジと白いあわら夢車（風車）など水辺の風景が美しいエリアとなっています。 ◇北潟湖畔公園と湖畔荘hanaゆらりにはレンタサイクルがありますが、周辺には土産物販売所や飲食店が少ないため、さらなる周遊と滞在を促進するための環境整備が必要です。 ◇北潟湖では寒鮒や天然ウナギが獲れるほか、周辺の丘陵地は、富津金時や大根、メロンなどの一大産地です。
目的と内容	◆北潟湖を中心に「自然・歴史・食」を満喫する周遊エリアとして、北潟湖畔公園や福井県立芦原青年の家などの既存施設を活用し、子ども、親子連れが楽しめる観光拠点の整備と観光ガイドやレンタサイクル事業を展開します。 ◆北陸街道や吉崎御坊などの史跡をガイドとともに辿る歴史探訪のプログラムやウォーキング、トレッキング、サイクリングツアーといったスポーツプログラムを、波松・吉崎・細呂木などの周辺地区と協力し、企画・開発・販売します。 ◆『花菖蒲まつり』や『観月の夕べ』は、湖のロケーションを活かし、北潟湖エリアならではの魅力を高めて実施します。 ◆果物や加工品、スイーツ、寒鮒料理や北潟湖の天然ウナギの郷土料理など地域の特産品を提供できる場所の整備について検討します。 ◆観光ガイドや語り部の人材発掘・研鑽を行い、北潟と細呂木や吉崎などの周辺エリアを一体的にガイドできる体制の構築を推進します。 ◆平成30年11月に設立された北潟湖自然再生協議会では、北潟湖の自然の再生と環境保全、魅力発信に努めます。
実施機関	・北潟湖周辺集落及び活動団体 ・北潟湖自然再生協議会 ・特定非営利活動法人　細呂木地区創成会 ・あわら市生活環境課、観光振興課、建設課 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
旅行商品の企画・開発		→	→		
土産品の企画・開発		→	→		
観光拠点の検討		→	→		
北潟湖畔でのイベントの魅力の向上	→	→	→	→	→

事業11	波松小学校を活かしたブルーツーリズムの推進
現状と課題	◇平成28年3月に休校となった波松小学校は、その利活用が急務となっています。現在、地域住民を中心とした検討委員会を開催し、活用の方向性の検討を進めています。 ◇波松エリアには、海岸や広大な農地などを活かした観光地引網やマリンスポーツ、さつまいも・梨の収穫体験などができる環境があり、くじら汁や小女子味噌など、この地域ならではの食文化もあります。それらの地域資源を活用した体験プランや食のおもてなし、集客イベントなどを検討していく必要があります。 ◇波松海岸は11月から3月にかけてサーフィンの愛好家が訪れているほか、一年を通じて沢山の釣り愛好家が訪れています。そうした客層のニーズを取り込み、地域内の消費につながる仕組みを考えていく必要があります。
目的と内容	◆地元の人が中心となり組織するまちづくり団体を設立し、波松エリアの観光まちづくりを行います。その拠点として休校となっている波松小学校の校舎を活用し、地域の魅力発信や宿泊、体験、飲食など、様々な事業を展開していきます。 ◆校舎の一部をカフェ兼加工所として利用し、メロンや梨といった地域の特産物を使ったメニューの研究と提供を行い、地域の魅力発信に努めます。 ◆小学校校舎を活用して開催されている「波松流木きらめきフェスタ」などのイベントを更に充実するよう支援します。北前船の歴史を背景とした波松エリアの伝承料理「くじら汁」の試食販売や、流木や貝殻、シーグラスを使った流木アートなどのワークショップ体験など、「ここでしか味わえない」、「ここでしか体験できない」メニューを通じて、地域のPRを行います。 ◆地域住民の活動支援をはじめ、地域資源の観光素材としての磨き上げのアドバイスや地域資源を活かした商品造成、豊富な農産物を観光客などへ販売するための物販コーナーを設けるなど、観光消費額を増加させる仕組みづくりを推進します。 ◆海岸の保安林には希少な植物が生息していることから、「あわらの自然を愛する会」などの団体と協力して、自然ウォッチングやウォーキングイベントなどの開催を通じ、自然環境の保全に協力します。
実施機関	・あわら市政策課、観光振興課 ・波松地区、波松地区まちづくり団体 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
地元まちづくり団体の設立・運営	→				
カフェ・加工所の内容の検討	→	→			
イベント・体験プランの充実	→	→	→	→	→
海岸の環境保全と魅力発信	→	→	→	→	→
休校舎を活用した事業の検討・実施			→	→	→

事業12	歴史ロマンを感じる「蓮如の里」「蓮如の道」づくりの推進
現状と課題	◇かつて蓮如上人が御坊を築き、門前町として栄えた吉崎エリアの参拝客は、年々減少傾向にあります。 ◇吉崎地区の少子高齢化は、あわら市の他地区と比べ高い割合となっており、地元寺院などと連携し、交流人口を増加させていく必要があります。 ◇平成28年3月に吉崎小学校が休校し、その校舎を活用した地域活性化について、検討を進めています。 ◇吉崎の観光については、これまで各寺院や団体がそれぞれ独自に推進してきましたが、今後は更に横のつながりを持って連携していくことが重要となっています。 ◇各寺院や蓮如上人記念館、旧吉崎資料館などでは、吉崎の歴史や文化、自然を学ぶことができますが、認知度を高め、子どもを中心に幅広い活用が望まれています。
目的と内容	◆地元の人が中心となってまちづくり団体を組織し、「蓮如の里」づくり（吉崎の歴史・文化、自然などを活かしたまちづくり）を推進します。その拠点として、休校となっている吉崎小学校の校舎を活かして、地域の歴史や文化遺産の展示、観光案内、飲食、宿泊など、様々な事業を展開していきます。 ◆地域代表者と吉崎エリアの関係寺院や団体で構成する「吉崎連絡会議」を通じ、吉崎のまちづくりや活性化に向けて、円滑な協力関係を構築します。 ◆吉崎の各寺院や蓮如上人記念館を中心に、吉崎御坊跡（御山）から望む日本海や鹿島の森、弁天島、北潟湖などの自然と景観を活かしたまち歩きコースや観光プランの造成を進めます。 ◆蓮如と吉崎についての歴史、御影道中や念力門を運んだ道などの調査・研究を進め、県内外の関係地域が連携した「蓮如の道」としての観光ルートづくりを促進します。 ◆石川県との県境に跨る『越前加賀県境の館』を活用した吉崎エリア全体の情報発信や、越前加賀県境綱引きなどを通じて、加賀吉崎地区との連携を強化します。 ◆旧吉崎資料館（自然館）の活用を検討します。
実施機関	・吉崎地区、浜坂地区、吉崎地区まちづくり団体 ・吉崎地区寺院ほか ・あわら市政策課、観光振興課、文化学習課

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
地元まちづくり団体の設立・運営	→	→	→	→	→
「蓮如の里」づくり事業などの検討と推進	→	→	→	→	→
「蓮如の道」づくり事業の検討		→	→	→	→
関係団体との連携強化	→	→	→	→	→

事業13	細呂木の史跡を活かした魅力の磨き上げ
現状と課題	◇細呂木地区では細呂木地区創成会をはじめとする地域づくりや史跡保存の団体が次々と立ち上がっており、「歴史遺産を活かしたまちづくり」として地区内の史跡や遺跡の清掃・保存活動、景観保全や鳥獣害対策など様々な活動に取り組んでいます。 ◇細呂木ふれあいセンターを活用し、「えきまえカフェ」やレンタサイクルの運営を開始しており、観光ガイドの活動についても積極的に取り組んでいます。 ◇細呂木・吉崎の観光拠点となる機能やソフト、サービスを既に有しており、自然と歴史の観光エリアを形成することが期待されています。
目的と内容	◆たたら製鉄所跡、神宮寺城址や川口城址などの歴史遺産の整備を支援するとともに、遺跡所在地区での保存会組織の立ち上げを推進します。また、これらの遺跡を巡るウォーキングツアーなどの開発を行っていきます。 ◆観光ガイドチームを増員し、季刊誌の発行やHPの開設など、情報発信強化の支援や、定期的に先進地視察や研修を実施し、ガイド力の向上に努めます。 ◆花咲ふくい農業協同組合や金津創作の森と連携した土産品の企画・開発活動を支援します。 ◆将来的に細呂木・吉崎エリアをレンタサイクルで結び、相互乗り捨てや、大聖寺駅レンタサイクルとの協力も視野に入れた事業を検討します。
実施機関	・特定非営利活動法人　細呂木地区創成会 ・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・花咲ふくい農業協同組合

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
景観保全事業	→	→	→	→	→
観光ガイド事業	→	→	→	→	→
土産品の企画・開発		→	→	→	→
レンタサイクル事業	→	→	→	→	→
他エリアとのレンタサイクル連携検討			→	→	→

事業14	フルーツラインを活かした収穫体験やツーリズムの推進
現状と課題	◇丘陵地エリアは、なだらかな北部丘陵地を横断するフルーツラインを中心に、果樹園やビニールハウスが広がっています。周辺にはあわらフルーツランド、乗馬クラブ、きららの丘のほか、梨、栗、メロン、スイカ、ぶどうなどの農園があり、収穫体験が楽しめるフルーツとグリーンツーリズムのエリアとなっています。 ◇きららの丘は、農産物直売所として観光客も増加しており、新鮮な野菜や果物の販売が好調となっています。一方、加工品などの土産品については、あわらの特産品である野菜や果物を活かしたオリジナル商品の開発や、市内外のセレクト商品の販売により、観光消費額をより高めていく必要があります。 ◇きららの丘では野菜や果物を販売していますが、フルーツライン沿いに複数の収穫体験や飲食ができる店舗などの整備が求められています。
目的と内容	◆丘陵地の農業体験とあわら温泉を組み合わせた体験・滞在型の旅行商品の企画・開発を促進します。 ◆特産品である野菜や果物（メロン、スイカ、梨、柿など）を活かしたオリジナル商品の開発や市内外のセレクト商品の販売により、観光消費額の増加に努めます。また、メロンやスイカ、梨などの販売にあたっては、品種や味の違いや特性をしっかりとわかるようにします。 ◆商品開発の推進にあたっては、農業者と商業者、デザイン企画者、マーケティング専門家による開発プロジェクトを設置し、コンセプトやターゲット層、販路・販売体制、事業収支、デザイン・パッケージまで一貫した商品プロダクトを企画し、売れる商品づくりを促進します。 ◆フルーツライン沿いに収穫体験や飲食ができる施設などの整備・運営を促進します。
実施機関	・花咲ふくい農業協同組合 ・あわら市観光振興課 ・あわら市商工会 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・特定非営利活動法人　細呂木地区創成会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
着地型旅行商品の販売	→	→	→	→	→
土産品の企画・開発		→	→		
収穫体験施設などの整備促進		→	→	→	→

事業15	金津創作の森やトリムパークかなづの観光拠点としての強化
現状と課題	◇金津創作の森は、平成10年に開館し20年が経過しましたが、来館者数が減少傾向にあります。今後は、現代アートだけでなく、やなせたかし展に代表されるような様々な分野の芸術展を開催していくことも必要となっています。 ◇春と秋に開催される『アートフェスタ』や『クラフトマーケット』、欧州車のラリーイベント『フレンチトーストピクニック』など、創作の森の雰囲気やロケーションを活かしたイベントは好評を博しており、多くの固定ファンがいます。 ◇限られた予算の中、民間企業などと連携して実施する実行委員会形式の美術展の開催も視野に入れ、より規模が大きく、魅力的な企画展に取り組んで行く必要があります。 ◇創作工房で実施される様々な体験プランを、今後は学習の要素を強くするなどし、教育旅行の素材としても磨き上げていく必要があります。 ◇トリムパークかなづには、日本庭園や野外音楽堂などの施設がありますが、十分な活用がされているとは言えない状況です。
目的と内容	◆金津創作の森アートコアを中心に、『金津創作の森美術館（仮称）』とし、早期に博物館登録を行い、広く文化施設としての認知度を高めるとともに入館者の拡大を図ります。 ◆マスメディアなど民間企業と連携した実行委員会形式の美術展も開催し、強力なプロモーションに裏打ちされた展示会の企画・広報を行っていきます。 ◆金津創作の森における体験メニューを充実するとともに、金津創作の森と温泉旅館の連携を強化し、芸術と温泉により、心と体がリフレッシュされるような旅行商品の企画開発を促進します。 ◆金津創作の森の施設の改修や野外展示物の更新を検討し、必要に応じて実施します。 ◆トリムパークかなづの日本庭園や野外音楽堂などの魅力を発信し、幅広い活用を進めます。
実施機関	・公益財団法人金津創作の森 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・民間企業

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
実行委員会形式の美術展の開催	→	→	→	→	→
体験メニューの磨き上げ	→	→	→	→	→
旅行商品の企画・開発	→	→	→	→	→
金津創作の森の改修や更新の検討	→	→	→	→	→
トリムパークかなづの活用方法の検討	→	→	→	→	→

事業16	坪江・剱岳の里山のめぐみを活かしたツーリズムの推進
現状と課題	◇坪江・剱岳地区は、刈安山や風谷峠、剱ヶ岳などの豊かな森林と品質の高い蕎麦や米が作られる、山間部らしい風景が美しい自然豊かなエリアです。蛍やアベサンショウウオなど数多くの生物が生息する水場や、横山古墳群・宇根観音など貴重な歴史資源も点在しています。 ◇「女将の酒プロジェクト」で使用される酒米（山田錦）は剱岳地区で栽培され、外国人モニターに稲刈り体験ツアーを行うなどの試みも行われています。こうした地域ならではの体験を更に掘り起し、磨き上げる必要があります。 ◇刈安山は、ツーリング客や本格アウトドア派に人気のキャンプ場がある刈安山森林自然公園や、アニメ「グラスリップ」に登場した展望台を有しています。剱ヶ岳線の拡幅工事が進んでおり、今後は、刈安山森林自然公園や展望台へのアクセスは改善される見込みです。一方で、熊や猪の出没も多く、利用客の安全を脅かしています。
目的と内容	◆坪江・剱岳地区の秋の収穫祭である「剱岳かりんて祭」を中心に、市内外からの誘客拡大に向けた情報発信を強化します。 ◆ホタル観賞や田植え・稲刈り体験、古墳を鑑賞するツアーなど、森林・農業・歴史体験と温泉旅館が連携した農泊体験プログラムや教育旅行プログラムを企画・開発し、山里の暮らしと温泉のネットワークを構築していきます。 ◆刈安山森林自然公園の散策マップを整備し、ツーリングや登山客などが楽しめる環境づくりを推進します。
実施機関	・坪江・剱岳地区区民、地元農業者 ・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・あわら市郷土歴史資料館 ・坂井農林総合事務所

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
体験プログラムの充実	→	→	→	→	→
旅行商品の企画・開発		→	→	→	→
刈安山森林自然公園の整備	→	→	→		

事業17	田園エリアの自然と景観を活かしたツーリズムの推進
現状と課題	◇伊井、坪江、里方、本荘、新郷地区にかけて広がる田園エリアは、広大な田園風景が広がり、えちぜん鉄道や夕日が沈む地平線、冬季の雁の群れなど心がほっとする農村の原風景を見ることができます。 ◇越のルビーの農業体験やウォーキング、サイクリングと温泉旅館の朝食や入浴を組み合わせた「蟹がらツアー」を実施しており、大空と大地を満喫しながら、心と体が元気になるツアーを楽しめるエリアとなっています。 ◇古くは奈良興福寺の荘園であった歴史の深いエリアですが、この田園エリアに観光客を誘導するためのストーリーや仕掛けづくりが課題となっています。 ◇新郷小学校が休校となっており、その利活用方法も検討していく必要があります。
目的と内容	◆壮大な大空とのどかな田園といった景観を活かしたサイクリングやウォーキングの拠点や周遊スポットなどの環境整備を検討します。 ◆えちぜん鉄道と連携し、かきもちや干し柿などの農産物加工体験とあわら温泉を組み合わせた田舎暮らし体験プログラムの企画・開発を促進します。 ◆田園の成り立ちと歴史資源を活用したストーリー性のあるエリア観光を推進します。 ◆休校となっている新郷小学校については、観光活動拠点としての活用を視野に入れた検討を行います。
実施機関	・農業者 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・あわら市政策課、観光振興課

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
地元観光素材の掘り起し	→	→	→	→	→
旅行商品の企画・開発		→	→	→	→
観光拠点づくりの検討		→	→	→	
新郷小学校活用の検討	→	→	→		

■ 施策6　テーマのある景観づくり

事業18	金津まちなかエリアの景観づくりと回遊性の創出
現状と課題	◇JR芦原温泉駅周辺地区では、地元住民や関係団体が主体となり、宿場町や金津本陣をモチーフにした景観まちづくり活動に取り組んでいます。 ◇花と緑の景観まちづくり活動、市民の緑化技術を向上する花と緑の講座の開催、県道芦原温泉駅停車場線の無電柱化と合わせて整備する街路灯や街路樹のデザイン検討など、住民と行政が協働し、市民や観光客が回遊しやすい景観形成に取り組んでいます。 ◇今後、空き家や空き地の発生が想定され、若い世代が住みやすい住環境の整備やニーズに即した店舗誘致、民間の景観形成支援など、計画的に推進する必要があります。
目的と内容	◆本質的な庶民のものづくり文化の原点を継承するため、本陣飾り物の歴史を深く掘り下げ、外国人観光客や教育旅行の学生を対象に、学芸員や地元住民とともに金津まちなかでのフィールドワークの実施や『本陣飾り物』の体験型プログラムの企画・開発を進めます。 ◆空き店舗活用として、市民や観光客が求める業種の計画的な誘致や、無電柱化事業と合わせた沿道の街並み景観形成事業など、北陸新幹線芦原温泉駅開業に向け、魅力的な店舗の整備や景観形成の誘導を検討します。
実施機関	・JR芦原温泉駅周辺地区 ・あわら市商工労働課、観光振興課、新幹線まちづくり課

実施内容	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
金津まちなかフィールドワークの実施		→	→	→	
本陣飾り物体験型プログラムの企画・開発	→	→	→	→	→
空き店舗活用の検討	→	→	→	→	

事業19	温泉地にふさわしい景観づくり
現状と課題	◇あわら温泉エリアは、明治に開湯した県内随一の温泉地で、74本の源泉や上水道財産区、総檜造の足湯（芦湯）、芦原芸妓の伝統芸能館、藤野厳九郎記念館、湯けむり横丁などがあります。「女将の酒」や「あわら蟹がらプロジェクト」など、農業との連携による春夏秋冬の特色がある温泉地づくりを進めるエリアとなっています。 ◇芦原温泉街は、空き地や空き旅館、空き店舗が発生し、観光地としての良好な景観や環境を維持していく上で課題となっています。 ◇芦原温泉街は、景観計画の「あわら温泉地区　景観形成重点地区」に位置付けられています。住民の主体的な景観形成に合わせて、空き地や空き店舗の活用を検討することにより、魅力的な空間形成や活性化につながります。
目的と内容	◆芦原温泉街全体を庭園と見たて、他のエリアの森林・農業体験や歴史・ものづくり体験と連携しながら、空き地を活用した植樹ツアープログラムや緑化、空き店舗の活用により、回遊性のある芦原温泉街の再生を目指します。 ◆宿泊客が気軽に浴衣や和服でまち歩きを楽しむことができる雰囲気づくりを更に推進するため、あわら温泉湯のまち広場を中心に街のにぎわい創出に向けた仕組み作りや景観形成について、地域住民、旅館や店舗などの事業者、関係団体と検討を進めます。
実施機関	・あわら市政策課、商工労働課、観光振興課、建設課 ・芦原温泉旅館協同組合 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施内容	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
景観整備、空き店舗･空き地整備の実施	→	→	→	→	→
温泉情緒漂う雰囲気づくりの推進		→	→	→	→
芦原温泉街の賑わい創出に向けた検討	→	→	→	→	→

■ 施策7　ユニバーサルな受け入れ環境づくり

事業20	案内看板・サインなどにおける多言語表示の整備促進
現状と課題	◇外国人観光客が旅行中に困ったこととして、「多言語表示の少なさ・わかりにくさ」が三番目に多いという結果が出ています。 ◇観光施設内表示や案内看板などについて、一部は多言語表記されているものの、まだ十分とは言えない状況で、多言語表記の対応を求められています。 ◇宿泊施設や商業施設においては、多言語化すべき場所や表示の仕方について、どのように対応してよいか判断できない事業者もいます。
目的と内容	◆観光施設や案内看板が、外国人観光客にわかりやすい表記となるよう内容の充実を図ります。 ◆国や市が実施する多言語表記に対する補助制度を周知・活用し、宿泊施設や商業施設、飲食店などにおける案内表示やメニュー、HPなどの多言語化を支援します。 ◆越前加賀インバウンド推進機構が実施する事業を活用し、宿泊施設や商業施設、飲食店などにおける多言語表記の改善や、観光施設でのQRコードを利用した多言語による観光案内を充実します。 ◆観光パンフレットやあわら市観光協会のHPについては、外国人観光客が利用しやすいように、多言語対応の充実やニーズに応じた内容の充実を図ります。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・観光事業者 ・あわら市商工会 ・越前加賀インバウンド推進機構

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
観光施設・案内看板などの多言語表記の検討	→	→	→	→	→
あわら市多言語整備補助金の実施	→	→	→	→	→
宿泊施設における多言語表記の改善	→	→	→	→	→
観光施設におけるQRコードを活用した案内の充実	→	→			
観光パンフレットなどの外国語表記などの充実	→	→	→	→	→

事業21	Wi-Fi環境の整備促進
現状と課題	◇市内の主な観光地（あわら湯のまち駅、湯のまち広場、湯けむり横丁、芦湯、セントピアあわら、aキューブ、JR芦原温泉駅、金津創作の森アートコア、越前加賀県境の館）についてはWi-Fi環境が整備されていますが、利用方法が施設によって異なり、利用者に対する利便性が十分とは言えない状況にあります。 ◇宿泊施設のWi-Fi環境については、全室整備されている施設と、ロビーなど共有スペースのみ利用可能な施設があり、施設によってばらつきがあります。 ◇旅行中に観光地の情報をスマートフォンやタブレットなどで検索する人や、観光地で撮影した写真を宿泊施設に戻った際にSNSなどにアップロードする人も多いため、宿泊施設における全室Wi-Fi対応のニーズが高まっています。
目的と内容	◆外国人観光客がストレスなく滞在できる環境を整備し、観光客の満足度向上及び情報発信力の強化を行うために、Wi-Fi環境の整備を促進します。 ◆利便性を高めるため、市内の公共施設におけるフリーWi-Fiの認証方法の統一化について検討します。 ◆観光地の詳細情報を取得し、観光の様子をリアルタイムにSNSなどで発信できる環境の整備を促進します。 ◆国や市が実施するWi-Fi整備に係る補助金を周知・活用し、宿泊施設や商業施設、飲食店などにおけるWi-Fi環境の整備促進を支援します。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・あわら市商工会 ・宿泊施設

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
Wi-Fi整備状況の把握	→				
あわら市Wi-Fi整備補助金の実施		→	→	→	→
他機関の補助金情報の周知	→	→	→	→	→
Wi-Fi認証方法の改善検討	→				
Wi-Fi情報の提供		→	→	→	→

事業22	キャッシュレス決済システムや免税店の導入促進
現状と課題	◇外国人観光客からは、「クレジットカードの利用」やスマホを活用した「キャッシュレス決済」、「両替」に対するニーズが高まっています。 ◇市内の宿泊施設や商業施設、飲食店などにおいて、免税対応が進んでいません。また、キャッシュレス決済システムを導入している施設も非常に少ない状況にあります。 ◇キャッシュレス決済は外国人にとっては一般的な方法ですが、北陸地方は交通系ICカードの導入も遅く、福井県は外国人観光客が少ないため、事業者においても免税店導入やキャッシュレス決済システムの必要性やメリットを感じていない状況にあります。
目的と内容	◆あわら市商工会やあわら市観光協会と連携しながら、事業者の導入状況の調査を実施します。 ◆外国人観光客の利便性を高め、消費拡大を図るため、各施設における免税店やキャッシュレス決済システムの導入を促進します。 ◆システム導入のメリットや必要性に関するセミナーの開催、事業者への個別相談などの支援を継続して実施します。 ◆行政や金融機関などが実施する整備に係る補助金について積極的に情報提供し、活用を促進します。
実施機関	・あわら市商工労働課、観光振興課 ・あわら市商工会 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・金融機関

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
導入状況調査	→				
個別相談や導入支援		→	→	→	→
導入に関するセミナーの参加促進	→	→	→	→	→
補助金情報の周知･活用促進	→	→	→	→	→

事業23	ユニバーサルツーリズムの推進
現状と課題	◇現在、市内の観光地や宿泊事業者はそれぞれの事業者が主体となって高齢者や障がい者の受け入れ対応を進めていますが、市全体でユニバーサルツーリズムを推進していくという機運は高まっておらず、受け入れ体制の改善が重要となっています。 ◇えちぜん鉄道あわら湯のまち駅のホームはスロープがなく、駅員が随時要望に応じて昇降の補助をしていますが、駅員の勤務時間外となると車いす利用者自身だけでは利用が困難な駅となっています。
目的と内容	◆年齢、性別、国籍、障がいの有無に関わらず安心して旅行ができるよう、新たに整備するJR芦原温泉駅西口駅前広場の観光案内所・魅力体感施設は、誰もが使いやすいユニバーサルデザインを導入し、ユニバーサルツーリズムに対応した観光案内を実施します。 ◆あわら市観光協会内のツアーデザインセンター内に、ユニバーサルツーリズムデスクを設置し、トラベルヘルパーや手話通訳サービスなどの手配など、様々な旅のニーズに応えるサービスの充実を検討します。 ◆ユニバーサル車両タクシーの導入促進など、交通事業者や宿泊施設と連携した環境整備を進めます。
実施機関	・交通事業者 ・あわら市福祉課、観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・社会福祉法人　あわら市社会福祉協議会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ユニバーサルツーリズムに対応する観光案内の検討			→	→	→
ユニバーサルツーリズムデスクの設置とサービスの検討				→	
ユニバーサルツーリズムデスクの運営					→
ユニバーサルタクシーの導入促進		→	→	→	→

戦略Ⅲ　誘う　マーケティングに基づいた誘客拡大

■ 施策8　マーケティングの実施と活用

事業24	マーケティング調査システムの検討とデータの活用
現状と課題	◇観光入込客数など観光に関する指標は、アンケートや聞き取り調査などにより作成してきました。今後、戦略的な観光情報の発信や旅行商品の開発、観光プロモーションを効果的に行うためには、ビッグデータなどを分析し、活用する必要があります。 ◇観光消費額については、これまで十分な調査を行ってきませんでしたが、今後は調査方法を検討し、消費額の拡大を図っていく必要があります。 ◇ターゲットを明確化し、効果的、効率的なプロモーションにつなげるための目的調査やデジタルマーケティングシステムの導入が重要となっています。また、調査結果を観光関連事業者にフィードバックして改善につなげる必要があります。
目的と内容	◆観光客のニーズや観光消費額の把握に有効となる、デジタルマーケティングシステムの導入について検討します。マーケティングのデータは、観光誘客拡大に向けた事業や旅行商品の造成などに反映します。 ◆観光入込客数や観光消費額のみならず、来訪者満足度、リピーター率、ウェブアクセス数などの調査・分析を継続的に実施します。 ◆調査や分析結果については、市民や事業者も情報を共有し、活用に向けた勉強会を実施するなどし、地域内の消費額拡大や地域産業の活性化につなげます。 ◆デジタルデータの定量的なデータ収集だけではなく、観光客や観光に携わる人々へのヒアリング調査など定性的な調査も実施します。
実施機関	・一般社団法人　あわら市観光協会 ・あわら市観光振興課 ・あわら市商工会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
各種データの収集・分析	→	→	→	→	→
マーケティングシステムや調査方法の検討、導入		→	→	→	→

事業25	「あわらファンクラブ」と「お客様の声」の活用
現状と課題	◇平成29年５月に「あわらファンクラブ」事業を開始し、平成30年12月末現在で1,000名を超える入会者数になっています。現在は、一方通行の情報提供に留まっているため、ニーズや意見を収集するために、双方向で情報交換をする関係性を構築する必要があります。 ◇観光事業者や交通事業者などの更なるおもてなしやサービスの向上、観光施策の充実のためには、観光客の意見などを収集し、反映する仕組みを構築する必要があります。
目的と内容	◆あわら温泉の宿泊客やあわら市観光協会が販売する着地型旅行商品の利用者、あわら市観光協会HPの閲覧者などに対し、「あわらファンクラブ」への加入を呼び掛け、会員数の拡大を図ります。 ◆ファンクラブの会員に対しては、商品開発に対するアンケート調査などを実施し、その結果を着地型商品の磨き上げや情報発信の強化、観光消費額の拡大に活用します。 ◆市内の観光施設や宿泊施設などに用紙と投函箱を設置し、「お客様の声（クレームや意見など）」を収集する仕組みを構築します。また、得られた意見や対応などを分析し、市内観光業者などにフィードバックすることで、市全体のサービスの改善や顧客満足度向上を図ります。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・観光事業者、交通事業者

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
あわらファンクラブの会員拡大	→	→	→	→	→
アンケートなどの実施・活用	→	→	→	→	→
「お客様の声」の制度導入		→	→	→	→

■ 施策9 「あわらならでは」の旅行商品やお土産の開発

事業26	温泉と農業と健康に特化した滞在プログラムの開発
現状と課題	◇あわら市の強みである「温泉」「食」「風景」を結びつけ、観光客がこれらの素材を体感することで、心も体も健康になる観光地づくりが求められています。 ◇丘陵地エリアは、苺、柿、ぶどう、メロン、スイカ、梨、栗など季節ごとに旬な果物を栽培しており、収穫体験に取り組んでいる果樹園もありますが、生産が主体で、観光客の受け入れには、人材不足、ノウハウ不足のほか、生産者と観光客を結ぶコーディネート機能が不十分となっています。 ◇サイクリングやレンタカー、ウォーキングやトレッキングとのコラボ体験ツアーなど、体験と移動と飲食の一体的なプログラム企画が重要となっています。
目的と内容	◆「温泉・食・風景」を活かした「現代湯治型の滞在型ツアー」の企画開発を進めます。ターゲット層は、若い女性や働く女性、健康志向の高い中高年、外国人とします。旅館や飲食店において、地元の食材を使った「素朴なふるさとの味」として、郷土料理、新鮮な野菜や果物、発酵食など「美味しさ＋健康の維持・増進」を兼ね備えた料理の提供を促進します。 ◆自然風景を活かした森林セラピーやウォーキング、サイクリング、ヨガ、果物収穫体験などのプログラムや、医療機関との連携により医学的な健康効果を検証し、温泉や湯治の歴史、泉質、効能を理解・実感できるプログラムの造成を促進するとともに、通年型で受入れ可能な体制づくりを進めます。 ◆農業体験を受け入れてもらう農家を増やすためのセミナーを開催します。 ◆農林水産業者、商業者、観光関係団体、宿泊事業者、花咲ふくい農業協同組合などが一体となり、種まきから収穫までの体験と宿泊を組み合わせ、年間を通じて何度も観光客が訪れる旅行商品を企画・開発します。
実施機関	・あわら市観光振興課、農林水産課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・花咲ふくい農業協同組合 ・坂井農林総合事務所 ・農業者 ・観光事業者

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
地元事業者の情報収集とセミナーの実施	→	→	→	→	→
滞在型ツアーやプログラムの検討	→	→			
プログラムの通年開催の検討		→	→	→	→
旅行商品の企画･開発･販売		→	→	→	→

事業27	地域の祭や伝統行事を活かした体験型旅行商品の開発
現状と課題	◇市内で行われている地域の祭や伝統行事のほとんどは、市民向けのイベントとして開催されています。 ◇旅行の形態がモノ消費からコト消費にシフトしてきており、その地域ならではの祭や伝統行事などを活かした着地型商品の充実を図る必要があります。 ◇少子高齢化が進む中、祭や伝統行事の後継者や担い手が減少しています。
目的と内容	◆あわら春まつりや金津祭の壮大な人形山車の引手や、あわら湯かけまつりでのお湯かけ、越前加賀県境綱引きなどを直接体験し、楽しさと魅力を体感できるプランを旅行商品化します。 ◆金津本陣飾り物や蓮如忌など、あわらならではの日本的な伝統行事の歴史的な価値と魅力を強く発信し、海外からも誘客できる旅行商品を造成します。 ◆祭や伝統行事の担い手を確保するため、地域外の人や県内外の学生、外国人などの参画を促進します。
実施機関	・地域の活動団体 ・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施内容	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
体験型旅行商品の造成	→	→	→	→	→
担い手の受け入れ促進	→	→	→	→	→

事業28	教育旅行誘致のためのプログラム開発
現状と課題	◇北陸三県の修学旅行誘致推進プログラムにおいて、JRと北陸経済連合会で首都圏からの修学旅行の誘致を展開しています。 ◇金沢市には多くの修学旅行生が訪れて宿泊施設が不足する中、その周辺圏域が、体験型やフィールドワーク型の教育旅行の受入先として期待されています。 ◇集団のコミュニケーションやフィールドワーク型、ものづくり体験型など、何を学ぶかというストーリー性が求められています。修学旅行の5、6、9、10月の時期に、旅館で寝る前の1時間に体験できるプログラムが求められています。
目的と内容	◆北陸新幹線で来訪する圏域の修学旅行の宿泊地としての整備を進めます。 ◆福井県観光連盟などと連携し、市内外の自然、歴史・文化、産業などを学ぶフィールドワーク型のプログラムを企画・開発します。 ◆広域で教育旅行を誘致するうえで、あわら市は、あわら温泉を宿泊先として提供し、宿泊施設内で、市内外の歴史・文化や食などを学習できる体験オプションの企画・開発も進めます。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・芦原温泉旅館協同組合 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・公益社団法人　福井県観光連盟 ・花咲ふくい農業協同組合 ・観光ガイド活動団体

実施内容	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
オプション企画・計画 （洗い出し・整理・構築）	→	→			
フィールドワークの企画・開発		→	→		
新規プログラム企画		→	→	→	
プログラム実施検証 （検証→改善→継続展開）			→	→	→

事業29	外国人が楽しめる体験プログラムの充実や新たなサービスの開発
現状と課題	◇あわら市を訪れる外国人観光客は、関西・中部・北陸という広域ルートの中で、あわら温泉を宿泊先として利用していますが、宿泊した翌日には他の観光地に移動してしまうパターンが多いのが現状です。 ◇あわら市は、自然、歴史・文化、食など魅力的な観光資源を多く有していますが、温泉以外の素材の認知度は低く、観光客にその魅力を体感してもらう仕掛けや、着地型旅行商品がまだまだ不足している状況にあります。 ◇日本人にとっては当たり前の物事や風景であっても、外国人観光客が興味を持ち、これまでになかったビジネスチャンスを生みだす可能性があります。
目的と内容	◆外国人モニターや招聘したメディア・旅行会社などの意見を踏まえ、宿泊施設や農業、交通などの事業者及び地域住民などと連携しながら、温泉、農業、自然、歴史・文化、食などを組み合わせた魅力的な体験プログラムを造成し、宿泊するだけでなく、長時間滞在し、あわら市の魅力を体感してもらえるような、滞在型観光を推進します。 ◆あわら市の自然、歴史・文化、食など、これまで市民にとっては当たり前であったものが、外国人観光客にとってはお金を払ってでも体験したい価値あるものの可能性があります。それらの観光素材について、ニーズの把握や磨き上げを行うことにより、新たな体験プログラムやサービスの提供など、新規ビジネスの創出につなげます。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・あわら市商工会 ・農業者

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
新規体験プログラムの企画・開発	→	→	→	→	→
既存プログラムの磨き上げ	→	→	→	→	→
外国人モニターによる検証		→	→	→	→

事業30	他市町と連携した周遊型旅行商品の開発
現状と課題	◇あわら温泉は、温泉を楽しむ観光客だけでなく、東尋坊や芝政ワールド、大本山永平寺、恐竜博物館などを訪れる県外の観光客の宿泊地としても選ばれています。 ◇あわら市への更なる誘客を推進するためには、今まで以上に近隣市町と連携を深める必要があります。
目的と内容	◆全国的に知名度の高い東尋坊を誘客のフックとして活用し、テーマやターゲットを明確にした、あわら市、坂井市の観光地を巡る宿泊を伴う着地型商品の検討・造成を行うなど、坂井・あわらエリアの周遊滞在型観光を推進していきます。 ◆大本山永平寺や永平寺大燈籠ながし、恐竜博物館や勝山左義長まつりなど、近隣の主要観光地や祭と、宿泊地としてのあわら温泉を組み合わせた旅行商品の造成や、誘客に向けた営業活動を関係市町と連携して実施します。 ◆複数の市町が連携することで、多様なニーズにあった観光素材を組み合わせることができるため、増加が見込まれるFIT向けの体験滞在型旅行商品を継続して検討・造成を行います。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・坂井・あわらエリア周遊滞在型観光推進委員会 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・越前加賀インバウンド推進機構 ・関係市町の観光団体 ・公益社団法人　福井県観光連盟

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
坂井・あわらエリア周遊滞在型旅行商品の検討・造成	→	→	→	→	
広域連携による商品開発や営業活動の実施	→	→	→	→	→
FIT向け体験滞在型広域旅行商品の検討・造成	→	→	→	→	→

事業31	高付加価値で魅力的なスイーツやお土産の開発
現状と課題	◇あわら市では、土産品の品揃えが豊富とは言えないことから、特産品である野菜や果物などを活かしたオリジナル商品の開発・販売により、観光消費額を高める必要があります。 ◇外国人観光客の旅行消費額の割合は、「買物代」が最も多くを占めており、お土産への関心が高いことがうかがえます。 ◇あわら市の特産品として、様々な和菓子や農産物がありますが、日持ちがしないものが多く、外国人観光客が自国に持って帰ることができるお土産が少ないのが現状です。 ◇土産品の生産者は、消費者のトレンドやニーズなどを把握し、商品の開発・販売につなげる必要があります。
目的と内容	◆消費意欲の高い女性や外国人客をターゲット層とし、特産品である野菜や果物を活かしたオリジナル商品の開発や県内外のセレクト商品の販売を進めます。 ◆農業者と商業者、デザイン企画者、専門家による開発プロジェクトを設置し、コンセプトやターゲット層、販路・販売体制、事業収支、デザイン・パッケージまで一貫した商品プロダクトを企画し、売れる商品づくりを促進します。 ◆あわらの特色が表れたパッケージ開発などを支援するため、あわら市独自の商品開発に係る補助金制度の導入を検討します。 ◆企画・開発の際には、専門のアドバイザーや外国人モニターなどの意見を踏まえながら、外国人目線での商品開発を行えるように、地域事業者に対する支援を行います。
実施機関	・あわら市商工労働課、観光振興課 ・あわら市商工会 ・花咲ふくい農業協同組合 ・農業者 ・製造・販売者、デザイナー、中小企業診断士などの専門家 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施内容	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
プロジェクトの検討・設置	→	→	→		
地域事業者による企画・開発		→	→	→	
新商品のPRと販売促進			→	→	→

戦略Ⅳ　伝える　ターゲットに伝える戦略的な情報発信と営業活動の展開

■ 施策10　戦略的な情報発信

事業32	SNSやインフルエンサーなど、インターネットを活用した情報発信
現状と課題	◇近年、旅行の目的地を決定する情報源として、インターネットが最も利用されています。SNSなどのインターネットを活用して情報発信することが重要であり、国内外へ情報発信するにあたり、非常に有効な手段となっています。 ◇情報発信の手段については、地域や年代などのターゲットを明確にし、適切なウェブ媒体を活用することが重要となっています。
目的と内容	◆あわら市観光協会のHPについては、観光動向やニーズを踏まえ、内容の充実を図るとともに旬な情報の発信に努め、閲覧者の拡大を図ります。また必要に応じて、フォーマットの改修や多言語対応の充実を図ります。 ◆Facebook、Twitter、InstagramなどのSNSにより、効果的に情報を発信するため、ユーチューバー、インスタグラマー、ブロガーと呼ばれる情報拡散力の高いインフルエンサーなどを活用した情報提供を行います。 ◆旅行サイトなどの企画事業を活用するとともに、市民やファンクラブが魅力を発信できる仕組みづくりに取り組みます。 ◆インターネット専門の会社とタイアップしたデジタルマーケティングを活用し、誘客拡大を図ります。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
観光協会HPの充実や改修検討		→	→		
インフルエンサーの活用		→	→	→	
ウェブ広告の実施	→	→	→	→	→
情報発信の仕組みづくりの検討		→	→		

事業33	各種メディア（テレビ、ラジオ、雑誌など）を活用した情報発信
現状と課題	◇インターネットやSNSでの情報発信が拡大しているものの、テレビやラジオ、雑誌、新聞などのメディアにおいて観光スポットなどの情報が取り上げられると、誘客に多大な効果があります。 ◇テレビやラジオは、日頃旅行に興味のない人々に関心を高める効果があり、旅行雑誌や専門誌は、旅行への意識が高い層に届く有効な手段とされています。
目的と内容	◆テレビやラジオ、新聞を活用し、地域や年齢、性別などのターゲット別に広告内容を変えるなど、効果的な発信を行います。 ◆各種メディアとの連携を深め、観光情報を適宜発信する仕組みや取材の協力体制を充実します。 ◆誘客につながるパブリシティーを増やすため、話題性や魅力のある旬な情報を収集し、定期的に提供します。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
効果的な宣伝活動の展開	→	→	→	→	→
情報の収集と発信	→	→	→	→	→

事業34	戦略的な海外プロモーションの実施
現状と課題	◇あわら市を含めた越前加賀のエリアは、海外での認知度が低い状況にあります。 ◇あわら市を訪れている外国人観光客のほとんどがアジア諸国からであり、そのうちの約60％が台湾からとなっていますが、台湾からの訪日旅行は減少傾向にあるため、その他の市場からの誘客が必要とされています。 ◇旅行形態については、各国において団体旅行から個人旅行にシフトしており、旅行会社への情報提供だけでなく、個人旅行者への直接的な情報提供が必要とされています。個人旅行者はウェブを活用して情報収集を行うことから、ウェブプロモーションを強化する必要があると考えられます。
目的と内容	◆あわら市を訪れた外国人観光客へのアンケート調査やビッグデータなど各種データを活用し、観光客のニーズを把握することにより、他地域と差別化を図り、ターゲットごとに戦略的なプロモーションを行います。 ◆国内や海外で開催される海外旅行会社との商談会に参加するほか、県や越前加賀インバウンド推進機構が実施する海外旅行会社へのセールスコールに参加します。現地旅行会社への積極的な売り込みを行うとともに、旅行会社への情報提供を強化し、担当者との密な関係を構築し、誘客につなげます。 ◆個人旅行者への認知度を向上させるため、ウェブプロモーションの強化を図るほか、HPやSNSによる情報発信だけでなく、ターゲットへの広告掲出や現地メディアやインフルエンサーを招聘し、現地で話題となるような情報拡散に取り組みます。 ◆在住外国人に対し、あわら市のイベントや各種体験への参加を促し、SNSなどで海外の家族や友人などに情報を発信してもらうことにより、あわらファンの獲得及び海外への知名度向上を目指します。また、イベントや体験などの参加者にはアンケート調査を実施し、内容の磨き上げを同時に行います。
実施機関	・越前加賀インバウンド推進機構 ・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・福井県広域誘客課 ・公益社団法人　福井県観光連盟

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
外国人観光客へのアンケート調査	→	→	→	→	→
各種データ分析によるターゲット設定及びニーズの把握	→	→	→	→	→
商談会への参加・セールスコール	→	→	→	→	→
ウェブプロモーション	→	→	→	→	→
現地メディア・インフルエンサー招聘	→	→	→	→	→
在住外国人による情報発信	→	→	→	→	→

事業35	県及び昇龍道などと連携した情報発信強化
現状と課題	◇海外へのプロモーション活動について、福井県や福井県観光連盟、昇龍道プロジェクト、越前加賀インバウンド推進機構など様々な団体がそれぞれ実施しており、各団体の活動の情報共有が十分になされていません。 ◇各団体がそれぞれに情報発信をすることにより、重複が生じており、改善していく必要があります。
目的と内容	◆海外に対してより効果的に情報を発信し、あわら市及び福井県の認知度を向上させるため、各団体との情報を共有し、連携したプロモーションの実施に取り組みます。 ◆各団体などが行う海外営業や商談会、旅行博への出展などの情報共有を行い、その機会を利用して、あわら市のプロモーションを効率的に実施するほか、ウェブプロモーション、招聘、現地イベントなどの費用と人材をまとめることで、集中的かつより大規模なプロモーションを実施します。 ◆各団体が連携して、広域的な観光ルートを構築し、東京・京都・大阪を巡るゴールデンルートに対抗しうる、より魅力的な周遊ルートを提案することにより、誘客力の向上を図ります。
実施機関	・越前加賀インバウンド推進機構 ・昇龍道プロジェクト推進協議会 ・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・福井県広域誘客課 ・公益社団法人　福井県観光連盟

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
情報共有のための関係者会議	→	→	→	→	→
各団体の事業情報提供	→	→	→	→	→

■ 施策11　様々な団体と連携した営業活動や旅行商品の共同開発

事業36	越前加賀インバウンド推進機構による誘客拡大
現状と課題	◇外国人観光客は、日本人観光客では考えられないような行程で日本国内を移動することが多いため、外国人観光客にプロモーションする上では、あわら市単独ではなく、近隣地域の素材を活用して、広いエリアでPRをする必要があります。 ◇テーマやストーリー性に基づいた観光資源や観光地域を結び付け、県境を越えて魅力ある広域観光周遊ルートを形成することは、外国人観光客の地方誘致や、それぞれの地域の活性化にもつながります。 ◇自治体単独よりも広域で連携してプロモーションを行うほうが、旅行会社も商品を企画しやすく、メディアも注目しやすいというメリットがあります。
目的と内容	◆越前加賀インバウンド推進機構での広域連携を継続し、近隣地域とともに情報発信や誘客活動に取り組む中で、あわら市としての海外プロモーションを合わせて行い、あわら市への誘客増につなげます。 ◆越前加賀インバウンド推進機構の活動において、各地域の観光事業者との関係性を構築することにより、今後の誘客活動への連携を強めていきます。
実施機関	・越前加賀インバウンド推進機構 ・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
受け入れ体制整備	→	→	→	→	→
広域連携プランの商品販売	→	→	→	→	→
広報・プロモーション活動	→	→	→	→	→
地域連携DMO設立検討調査	→	→	→	→	→

事業37	旅行会社への営業強化と商品造成促進
現状と課題	◇旅行会社では、上半期・下半期の年2回に分け、旅行商品の造成が行われています。造成の時期にあわせ、福井県や県観光連盟、各種団体などと連携し、商談会や観光素材説明会への参加や訪問営業を行っていますが、新たな旅行商品の造成につながっていません。 ◇首都圏をはじめとする主要駅での大型キャンペーンやツーリズムEXPOジャパンなどに協力、参加し、広くPRを行っています。 ◇2023年春の北陸新幹線延伸を見据えながら、首都圏に加え、関西圏や中京圏などでの旅行会社に対する営業活動の強化が必要です。
目的と内容	◆あわら市への旅行商品の造成を促進するための、厳選され、差別化できる商品づくりを旅行会社とともに企画できるよう、商品造成のための視察支援費用を補助します。 ◆旅行会社を広域で招聘し、観光地視察や現地商談会を実施するなどし、福井県全体でセールスプロモーションを図ります。 ◆周辺観光団体などが連携し、首都圏旅行会社とのタイアップによる年間を通じたモニター企画を実施するなど、開業に向けて更なる認知度の向上を図ります。 ◆2023年春の北陸新幹線延伸を見据えた首都圏での観光PRや各種イベントへの参加に加え、関西圏や中京圏の旅行会社に対する効果的な観光PR活動も積極的に展開します。
実施機関	・一般社団法人　あわら市観光協会 ・あわら市観光振興課 ・芦原温泉旅館協同組合 ・旅行会社 ・各種マスメディア ・福井県 ・公益社団法人　福井県観光連盟 ・県内観光団体

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
旅行商品の企画開発	→	→	→	→	→
営業活動･観光PR強化	→	→	→	→	→
モニター･現地商談会実施		→	→	→	

事業38	教育旅行、MICEの誘致
現状と課題	◇平成31年度より、北陸新幹線の教育旅行用団体列車の特別割引が運用開始となり、関東方面からの教育旅行先として、北陸への関心が高まっています。 ◇今までの教育旅行の最大の目的地であった京都や奈良は、インバウンドの増加により宿泊先が確保しにくい状況にあり、行き先の変更を検討している学校が急増しています。また、あわら温泉の旅館の閑散期と教育旅行のシーズンがマッチしていることから、丁寧な営業を重ねることで確実な成果が期待できます。 ◇福井県には東尋坊や恐竜博物館など自然や歴史を学ぶ資源や、越前和紙や越前漆器などの伝統工芸を学ぶことができる施設など、教育旅行に適した素材が多数存在し、それらの体験と宿泊地としてのあわら温泉をセットでPRしていくことが重要です。 ◇福井県でのコンベンション開催は、助成制度が十分でなかったこともあり、石川県や富山県と比較し、件数も人数も圧倒的に少ない現状となっています。
目的と内容	◆福井県や北陸三県で実施する教育旅行の商談会やエクスカーションに積極的に参加・協力し、学校や教育旅行関係者に宿泊地としてのあわら温泉をアピールしていきます。 ◆あわら温泉周辺の学びの施設との連携を推進し、修学旅行コースを提案するとともに、宿泊施設などでの体験プランを充実させ、積極的な教育旅行の誘致を実施します。 ◆MICEに対する助成制度を平成31年度より強化し、県と連携しながら誘致を推進します。 ◆教育旅行やMICE受け入れのための宿泊施設の設備やサービスの改善を促進します。 ※ＭＩＣＥとは、Meeting（会議・研修・セミナー）、Incentive tour（報奨・招待旅行）、ConventionまたはConference（大会・学会・国際会議）、Exhibition（展示会）の頭文字をとった造語で、ビジネストラベルの形態
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・福井県観光振興課 ・公益社団法人　福井県観光連盟 ・公益財団法人　福井観光コンベンションビューロー

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
修学旅行商談会やエクスカーションの参加	→	→	→	→	→
観光連盟と協働した教育旅行の誘致活動	→	→	→	→	→
MICE誘致の強化	→	→	→	→	→

事業39	交通事業者や旅行会社と連携した誘客キャンペーンやイベントの展開
現状と課題	◇北陸新幹線金沢開業年の10月から12月にかけ、JR6社と自治体や地域の観光事業者がタイアップし、大型観光キャンペーン「北陸デスティネーションキャンペーン(以下DC)」を行い、福井県への観光誘客を強力に推進してきました。 ◇近年の秋冬は「Japanese Beauty Hokuriku（以下JBH）」キャンペーンや「かにを食べに北陸へ」キャンペーンなど、越前ガニのシーズンに集中した誘客キャンペーンが行われています。 ◇2023年の北陸新幹線県内延伸時にも、JRや旅行会社が強力なプロモーションで福井への送客を後押しする動きが出てくると予想される中で、こうした企業との連携をスムーズに行い、おもてなしの体制を整え、しっかりとタッグを組んでいくことで誘客効果を倍増させていく必要があります。
目的と内容	◆北陸新幹線延伸年度のDCの開催に対する働きかけを行うとともに、交通事業者や旅行会社との連携を深め、DCに合わせた特別感のあるツアー企画及びイベント開催などの検討を進めます。 ◆北陸新幹線延伸年度の「杜の賑わい」※の誘致に対する働きかけや開催に関する調整及び準備を進めます。 ※JTBとJCBが主催して行う地域の伝統芸能や民族文化をプロの演出を加え、2日間のイベントとして披露するもの。全国のJTB支社が旅行商品を造成し送客を行う。
実施機関	・交通事業者 ・旅行会社 ・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
DC素材の検討	→	→	→		
プレDC実施				→	
DC本番					→
杜の賑わい誘致、企画、検討		→	→	→	
杜の賑わい実施					→

事業40	海外都市交流事業でのPRやトップセールスの実施
現状と課題	◇あわら市出身の医師・藤野厳九郎と中国浙江省紹興市出身の文豪・魯迅との師弟愛を機縁に、昭和58（1983）年に紹興市と友好都市の締結をして以来、両市間では、人と人との交流を中心に、教育、文化、産業などの分野において、幅広い交流を続けています。 ◇平成30（2018）年に紹興市で開催された友好都市締結35周年記念式典では、あわら市長から紹興市長に対し、あわら市へのインバウンド促進の協力要請を行ったほか、中国浙江省人民政府に直接表敬訪問するなど、精力的にトップセールスを実施しました。 ◇今後、あわら市と紹興市の相互理解や友好・親善をさらに深め合い、教育や文化をはじめ、観光や産業などの分野においても、市の発展や人材育成につながるような交流やPRのあり方について、具体的に検討していく必要があります。また、多くの市民や観光事業者などに交流事業に参画してもらうよう、働きかける必要があります。
目的と内容	◆あわら市同様、紹興市との友好都市を締結している富山県南砺市などと共に、広域的な観光セールスなどの共同実施について検討します。 ◆2年毎に紹興市で開催が予定されている紹興市主催の「紹興市国際友好都市あわら市大会」に、市長をはじめとする代表団に加え、市民や観光事業者などの参加を促進し、誘客や企業間交流の拡大に努めます。 ◆中国国内でのPRやトップセールスを更に強化していくため、旅行会社や観光関連団体、市内企業などにも参画してもらえるよう、紹興市との友好交流に関する普及啓発に努めるとともに、県や周辺市町・関係団体などとの連携の構築を図ります。
実施機関	・あわら市 ・あわら市日本中国友好協会 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・市内企業、関係団体 ・越前加賀インバウンド推進機構 ・公益財団法人福井県国際交流協会 ・富山県南砺市、兵庫県西宮市、静岡県富士宮市、栃木県小山市

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
PRなどのあり方の検討（広域的な観光セールスなど）	→	→			
紹興市の友好都市大会への参加		→		→	

戦略Ⅴ　結ぶ　組織や地域を結ぶネットワークの整備

■ 施策12　市内外を結ぶ二次交通ネットワークの形成

事業41	えちぜん鉄道及びバスを活用した移動手段の充実
現状と課題	◇近年、えちぜん鉄道を利用する観光客が増加傾向にあり、あわら市内への誘客につなげる必要があります。 ◇平成30年度から路線バス北潟線が廃止になるなど、観光客の移動手段の選択肢が限られてきています。 ◇北陸新幹線延伸を見据え、公共交通機関であわら市を訪れる観光客に対し、市内外の観光に使用できる移動手段として、二次交通を充実させる必要があります。 ◇あわら温泉からあわら市周辺の観光地に移動する二次交通網を整備し、あわら温泉を核とした観光地間の周遊性を高める必要があります。 ◇芦原温泉駅からあわら温泉旅館へは、各旅館がサービスの一環として送迎バスを運行していますが、駅でのトランジットタイムの有効活用及び駅周辺のまち歩きへの誘導の観点から、送迎バスのあり方について検討する必要があります。
目的と内容	◆えちぜん鉄道と連携し、利用客の動向やニーズを踏まえて、あわら温泉または市内観光スポットとの二次交通セット商品の造成を進めます。 ◆観光客向けに、あわら湯のまち駅、きららの丘、北潟湖畔公園、吉崎御坊、金津創作の森、芦原温泉駅などを結ぶシャトルバスを、土・日・祝日に運行します。 ◆あわら温泉と永平寺を結ぶ直行バスの運行を支援するとともに、えちぜん鉄道及び京福バスと連携したあわら・坂井エリアを一体的な観光地として回遊できる移動手段やサービスについて検討を進めます。 ◆芦原温泉駅から旅館への送迎については、新たな輸送手段や運行形態などを関係団体・機関と協議、検討します。
実施機関	・あわら市観光振興課、生活環境課 ・えちぜん鉄道株式会社 ・京福バス株式会社 ・芦原温泉旅館協同組合

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
あわら温泉永平寺直行バス運行支援	→	→	→	→	→
市内シャトルバス運行	→	→	→	→	→
あわら・坂井エリア内の回遊手段の検討・導入		→	→	→	→
旅館の送迎に代わる輸送手段の検討・実施	→	→	→	→	→

事業42	タクシーやレンタカーを活用した移動手段の充実
現状と課題	◇市内の観光スポット（金津創作の森、北潟湖、吉崎御坊、各種果物狩りの体験場所など）には現在、観光客が利用できる公共交通機関がなく、土・日・祝日のみあわらぐるっとタクシーが運行している状況です。 ◇あわらぐるっとタクシーは、土・日・祝日の9時から17時の運行時間となっており、利用するためには配車センターに連絡し、手配されたタクシーしか利用することができないため、不便な点があります。 ◇JR西日本が実施しているタクシー事業として、駅から観タクンがありますが、コースが設定されているサービスのため、フリープランを希望する観光客のニーズに合わない場合があります。 ◇レンタカー事業者は、芦原温泉駅に2社、あわら湯のまち駅に2社となっており、今後、外国人観光客も含め、レンタカーの需要が高まることが予想されることから、その充実を図る必要があります。
目的と内容	◆あわらぐるっとタクシーの平日運行や予約業務の簡略化を検討します。 ◆あわら市近郊の魅力的な観光地を、いろいろなテーマに沿って高齢者などが気軽に移動できるように、駅から観タクンのコース設定の充実について提案していきます。 ◆芦原温泉駅周辺への新たなレンタカー事業者の進出や外国人向けのレンタカーの配置を促すとともに、レンタカーのプール場所の整備について検討します。
実施機関	・タクシー事業者 ・レンタカー事業者 ・西日本旅客鉄道株式会社 ・あわら市観光振興課

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ぐるタク予約業務簡略化検討	→				
ぐるタク平日運行	→	→	→	→	→
観タクンコース検討・提案	→	→	→	→	→
レンタカー事業者誘致		→	→	→	→

事業43	レンタサイクルやライドシェアの導入促進
現状と課題	◇芦原温泉街や金津まちなか、細呂木の歴史遺構、金津創作の森、吉崎御坊、北潟湖などの周遊性のある観光エリアがあるにも関わらず、移動する交通手段が十分ではありません。 ◇あわら湯のまち駅や北潟湖畔公園、細呂木駅前にはレンタサイクルが配置されていますが、相互乗り捨てができないなど、課題も多くあります。旅行客のニーズに合った広域的なレンタサイクルの活用や拠点の整備が求められています。
目的と内容	◆金津まちなか、吉崎御坊など市内の主要ポイントにレンタサイクルを導入し、芦原温泉街、北潟湖畔公園、細呂木駅前などと連携しながら、乗り捨てのニーズの有無や利用動向の調査を行い、その結果を踏まえ、レンタサイクル拠点の整備について検討します。 ◆各拠点では、サイクリングコースや観光情報を提供するとともに、旬の味覚やお土産なども購入できる旅の拠点となる複合的な機能を持たせることを検討し、地元まちづくり団体などにより運営できる体制づくりを進めます。 ◆ライドシェアや電動レンタバイクの導入など、話題性のある先進的な取組みについて検討します。
実施機関	・あわら市観光振興課、建設課、生活環境課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・特定非営利活動法人　細呂木地区創成会 ・越前加賀県境の館管理運営委員会 ・金津本陣にぎわい広場運営委員会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
レンタサイクルに関するニーズ調査	→	→			
レンタサイクルの配置や拠点の整備		→	→	→	→
ライドシェアや電動レンタバイクなどの検討		→	→	→	→

■ 施策13　広域観光ネットワークの活用

事業44	市内外の観光案内所間のネットワークづくりと相互連携
現状と課題	◇あわら市の観光案内所では、市内の観光案内はもとより、観光客から問合せの多い東尋坊や恐竜博物館など、市外の観光スポットなどの案内を強化していく必要があります。 ◇北陸新幹線芦原温泉駅開業後、西口駅前広場の観光案内所は広域的な観光案内の拠点となることから、他市町の観光案内所との連携を深めるなどし、きめ細かな情報提供を行うことが必要となってきます。
目的と内容	◆市内の観光案内所及び観光施設、宿泊施設、交通事業者などの連携を強化し、観光案内所における円滑できめ細かな情報提供を強化します。 ◆新幹線駅開業に向けて、増加する観光客の様々なニーズに対応し、広域の観光案内をスムーズに行うため、県内や石川県の観光案内所間のネットワークの構築や連携を推進し、観光情報の共有や提供を充実します。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
市内観光案内所・施設のネットワーク化	→	→	→	→	→
観光情報の共有化・提供			→	→	→

事業45	高速道路や周辺空港など高速交通ネットワークの活用
現状と課題	◇平成27年に舞鶴若狭自動車道、平成29年に永平寺大野道路がそれぞれ全線開通し、県内の高速交通ネットワークは飛躍的に強化されました。 ◇平成30年のあわら温泉宿泊客の交通移動手段内訳によると、マイカーを利用して訪れるお客さまが71.7％と圧倒的に多く、自動車ユーザーへのアプローチが重要となっています。 ◇小松空港は、あわら温泉から車で約40分と近く、利用しやすい位置にあります。また、平成31年4月から新たに香港の定期便が就航することが決定しています。 ◇小松空港、中部国際空港、関西国際空港は、外国人観光客のあわら温泉へのゲートウェイとなっており、今後、各空港の利活用を強化することが必要です。
目的と内容	◆今後、中部縦貫自動車道が延伸するなど、高速交通体系が整備されていく中で、NEXCOや近隣SA・PAとタイアップした高速料金キャンペーンや福井県の観光地、グルメ、アクセス情報の発信などのプロモーションなどに参画し、あわら市の知名度向上と誘客拡大を図ります。 ◆空港管理会社や航空事業者とタイアップし、空港や機内での観光情報発信やプロモーションを強化します。 ◆小松空港、中部国際空港、関西国際空港、羽田空港などを組み合わせ、福井県やあわら市を訪れるインバウンド向けの旅行商品の造成を積極的に働きかけます。
実施機関	・福井県 ・あわら市観光振興課 ・NEXCO ・空港管理会社、航空事業者 ・旅行会社

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
空港や高速交通網を活用したプロモーション強化	→	→	→	→	→
小松空港などの利活用促進			→	→	→

事業46	連携中枢都市や周辺市町との連携強化
現状と課題	◇福井市を中心として嶺北7市4町は、平成31年度から連携中枢都市圏の形成に取り組むこととし、観光を含めた様々な分野で連携する動きが出ています。 ◇あわら市は、広域観光を推進する団体として、隣接する市町で構成される広域観光団体に複数加盟しています。 ◇観光客にとって、市町の隔たりは意識されるものではなく、これまでもあわら温泉は東尋坊や恐竜博物館に行くための宿泊拠点として利用されています。あわら温泉は、周辺観光地の宿泊拠点としてエリア全体でPRしていくことが重要となっています。
目的と内容	◆北陸国際テーマ地区観光推進協議会、越前加賀広域観光推進協議会、越前加賀インバウンド推進機構、坂井・あわらエリア周遊滞在型観光推進委員会、あわら・三国観光推進協議会などの事業に積極的に参画し、広域観光を推進する中で、あわら市の知名度向上と更なる誘客拡大を図ります。 ◆携帯電話GPSを活用したふくい嶺北連携中枢都市圏での観光動態調査を活用し、あわら市を含む周遊滞在型観光を推進します。 ◆関東圏、関西圏や外国人観光客など、各広域観光協議会がターゲットとするエリア・客層に対する広域観光プログラムの造成と情報発信、観光案内・受入体制の連携強化を図ります。 ◆宿泊地であるあわら温泉と嶺北の主要観光地を結ぶ広域交通ネットワークの構築を目指します。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・各種観光団体 ・周辺市町

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
連携中枢都市圏での観光動態調査	→	→	→		
広域観光ルートの造成と情報発信	→	→	→	→	→
広域交通ネットワークの構築			→	→	→

戦略Ⅵ　育てる　観光振興を担う人材育成と推進体制の充実

■ 施策14　市民のおもてなし意識の醸成

事業47	観光事業従事者の確保とおもてなし意識やサービス力の向上
現状と課題	◇あわら市の観光産業を担う若い世代は少なくなっており、宿泊や交通、飲食サービス業などの魅力を発信し、就業する若者を増やしていく必要があります。 ◇旅行中の思い出やおもてなしは、旅先に良い印象を持って帰るだけでなく、良いロコミの拡散効果も期待できますが、サービスへの不満や、配慮の無い対応は一瞬にしてSNSなどで拡散し、大きな損失を被る可能性を秘めています。 ◇宿泊業界における人出不足はあわら温泉も例外ではなく、業務の効率化や外国人材の登用など、雇用のあり方が変化しており、サービスの低下につながる恐れがあります。
目的と内容	◆旅館などにおける観光事業従事者を確保するため、市内の旅館や飲食店などを紹介する「企業等魅力紹介ブック(仮)」を作成するなどし、観光事業への関心を高め、就業を促進します。 ◆観光や宿泊施設、交通事業などに従事する人を対象に、接遇やサービスを向上させる研修会を定期的に開催し、あわら市全体でお客様を迎え入れる、おもてなしのレベルの底上げに取り組みます。 ◆観光事業者や地域の観光を担う人を対象に、観光マーケティングや商品・サービス開発、PR・販売、人づくり、まちづくりなどの実践的な能力を身につけるため、市内観光事業者や観光担当職員の福井県観光アカデミー参加を促します。 ◆観光事業者はもとより市民も巻き込み、地域全体が一体となって北陸新幹線開業を盛り上げる機運を醸成していくためのセミナーや講演会を開催するほか、「あわら市おもてなしハンドブック」を改訂し、「ふくい観光おもてなしハンドブック」なども活用しながら、観光事業者をはじめ市民全体のおもてなしレベルを向上させます。 ◆「お客様の声」や「あわらファンクラブ」の意見を参考に課題を把握し、観光や宿泊施設などでのサービス向上や施設・設備の改善を促進します。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・芦原温泉旅館協同組合、女将の会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
おもてなし研修会などの実施	→	→	→	→	→
開業機運醸成のセミナー実施		→	→	→	→
「お客様の声」などの反映		→	→	→	→
おもてなしハンドブックの改訂			→		

事業48	市民の地域に対する愛着醸成
現状と課題	◇多くの観光客が訪れ、感動を得る地域の特徴は、地元の人達がふるさとを愛し、活発に活動しているところが多いという調査結果が出ています。 ◇幼少期から地域への関心を持ち、新たな発見や好奇心を持って地域活動に参画する市民の育成と、多世代が連携して地域づくりに取り組むことを通じて、ふるさとへの愛着の醸成を図ることが重要です。 ◇観光客にとっては、あわらの何気ない風景や市民とのふれあいも旅行の要素となることから、あわら全体でおもてなしを形にしていくことが求められています。
目的と内容	◆各小中学校におけるふるさと教育において、あわら市の自然、歴史・伝統文化、祭、食など地域固有の良さに実際に触れ、体験することを増やすなどし、地元への誇りや愛着を醸成します。 ◆小中学校の修学旅行や課外活動で、あわら市をPRする活動などを通じ、観光客や来訪者へのおもてなしを主体的に実践する力を育成します。 ◆小学生を対象とした温泉に親しむプログラムや、市民を対象とした観光おもてなし講座などを開催し、子どもから大人まで一人一人があわら市の観光ガイドとして活躍する環境づくりを推進します。
実施機関	・あわら市政策課、観光振興課 ・あわら市教育委員会 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ふるさと教育の実施	→	→	→	→	→
温泉に親しむプログラムなどの実施		→	→	→	→

■ 施策15　観光コンシェルジュや観光ガイドの育成

事業49	観光コンシェルジュの雇用･育成
現状と課題	◇北陸新幹線芦原温泉駅開業により、首都圏や外国からの来訪客が増加することが予想されます。このため、観光案内所などにおいては、様々な観光客のニーズに対応した、きめ細かいサービスの提供が急務となっています。 ◇地元の事情を熟知し、その旅行の目的、趣向、形態などに最も適合する現地プログラムの企画･運営などの支援を行う、専門的な観光コンシェルジュを雇用･育成する必要があります。
目的と内容	◆観光コンシェルジュは、窓口での観光案内のみならず、旅行プランや移動手段の知識や提案力、コミュニケーション能力などを備え、外国語対応もできるプロフェッショナルな人材として、雇用･育成を行います。 ◆北陸新幹線芦原温泉駅開業までに、広域観光から市内の旅のプログラム企画･開発などのキャリア構築が必要なため、あわら市観光協会などでの業務経験を踏まえ、観光コンシェルジュとして育成します。
実施機関	･あわら市観光振興課 ･一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
コンシェルジュの募集･雇用		→	→		
観光案内業務などの研修			→	→	→

事業50	案内所職員・観光事業者・観光ガイドを対象とした外国語研修
現状と課題	◇外国人観光客が旅行中に困ったこととして、「施設などのスタッフとのコミュニケーションがとれない」が一番多いという結果が出ています。 ◇受入側のアンケート調査では、外国人対応で困ったことについて、「外国語対応ができない」という回答が一番多くなっています。 ◇観光事業者において、外国語対応ができる人材が少なく、外国語を話せない人は外国人観光客への対応に消極的であり、その雰囲気は言葉がわからなくても外国人観光客に伝わりやすく、悪い印象を与える可能性があります。
目的と内容	◆外国人観光客への適切な情報提供及び満足度を向上させるため、観光案内所職員をはじめ、宿泊や商業施設の従業員、観光ガイドなど既存の観光に関わる人材を対象として語学研修を行います。 ◆越前加賀インバウンド推進機構が実施する観光ガイド・コンシェルジュ育成事業と連携し、観光事業者がよく使う挨拶や会話表現などを英語や中国語で学ぶことができる研修会を開催します。 ◆外国人観光客と少しでも意思疎通ができ、円滑な対応ができるようにするため、翻訳タブレットの活用や、おもてなしやしぐさによるコミュニケーションに関する研修、諸外国の文化や慣習などについて学ぶ機会を設けます。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・あわら市商工会 ・芦原温泉旅館協同組合 ・越前加賀インバウンド推進機構

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
語学研修	→	→	→	→	→
おもてなしや異文化理解などの研修		→	→	→	→

■ 施策16　観光推進体制の強化

事業51	観光ガイドネットワークの構築と継続的な研鑽の実施
現状と課題	◇観光ガイドについては、吉崎・細呂木地区を中心に積極的に取り組んでいますが、その他の地域には観光客を案内できる人材が少なく、ガイドの確保や育成にばらつきが生じています。 ◇今後、エリア観光をより楽しく、魅力的にするためには、観光客が求める歴史や文化、自然など様々なニーズに対応できる観光ガイドを育成するとともに、新たな観光ガイド団体の設立が必要です。 ◇各団体の知識やノウハウを共有し、相互にガイド力を磨き上げるため、観光ガイド団体のネットワーク化が重要となっています。 ◇観光ガイドネットワーク団体の設立後は、継続的な観光ガイドの募集・育成・運用など、観光ガイドネットワーク団体としての自主運営を推進するため、活動資金の助成や活動拠点の確保といった環境整備をトータルに行う必要があります。
目的と内容	◆地元の自然や歴史・文化、食、祭などの魅力を積極的に紹介、発信できる人材を発掘するとともに、観光ガイドへの参画を促進します。 ◆観光客の周遊の拠点となる芦原温泉駅前や芦原温泉街に、観光ガイドの窓口を設置し、観光客のニーズに応じて、各エリアの観光ガイドを紹介、斡旋する体制を構築します。 ◆エリア観光を推進するにあたって、エリア専門ガイド、歴史・文化ガイド、農業体験ガイド、ものづくり体験ガイド、健康と温泉ガイドなど、エリアの特性に応じた体制整備を推進します。 ◆観光客のニーズの多様化にあわせ、インバウンドも含むレベルアップの研修会の開催、他地域とのガイド交流、先進地視察を随時実施します。
実施機関	・あわら市観光振興課、文化学習課 ・一般社団法人　あわら市観光協会 ・観光ガイド活動団体　など

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
観光ガイドネットワーク設立準備	→				
エリアガイドの内容・拠点検討	→	→			
ガイド募集・育成・視察・研修	→	→	→	→	→
モデルコース検証ツアー開催		→	→	→	→

事業52	観光振興課と観光協会の体制強化
現状と課題	◇北陸新幹線芦原温泉駅開業に向けて、観光地間競争が激しくなる中で、あわら市観光振興課とあわら市観光協会が果たす役割は大きくなっています。 ◇現在は、双方がイベントや出向宣伝、出版物の発行、施設管理などを行っており、役割分担を明確にし、効果的に事業を展開する必要があります。 ◇今後、あわら市観光協会においては、マーケティングやプロモーション機能を充実するため、専門的な人材の育成や増員など体制の強化が急務となっています。
目的と内容	◆あわら市観光振興課とあわら市観光協会が役割を明確にしつつ、あわら市観光協会においては、マーケティングに基づいた着地型旅行商品の企画・開発・販売、商談会や出向宣伝への参加、プロモーションなどを効果的・効率的に実施する機能を充実します。 ◆あわら市観光協会においては、北陸新幹線芦原温泉駅開業までに、観光プロフェッショナルとして実働できる人材や、観光案内施設などの効果的な運営、インバウンドに対応した人材を育成・雇用します。 ◆あわら市から職員を派遣し、あわら市観光協会事業の企画・運営・商品開発などに従事するとともに、行政とのパイプ役を担い、強力な連携体制の構築を図ります。
実施機関	・あわら市観光振興課 ・一般社団法人　あわら市観光協会

実施年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
市と協会の業務分担見直し	→				
観光協会の機能強化	→	→	→	→	→
協会職員の採用･雇用		→	→	→	→
市職員の派遣	→	→	→	→	→